

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成29年 6月 19日

愛知県知事 殿

提出者

住 所 大阪市此花区西九条6丁目1番124号

氏 名 大日本塗料株式会社

取締役社長 岩浅 寿二郎

小牧工場長 平林 和幸

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0568-72-4141

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大日本塗料株式会社 小牧工場
事業場の所在地	小牧市大字三ッ淵字西之門878
計画期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	17
②事業の規模	
③従業員数	274名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙(I)

(日本工業規格 A列4番)

## (第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙(Ⅱ)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度(28年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	排出量	70.6 t	3488 t
	(これまでに実施した取組) 廃油→塗料製造工程の見直しと洗浄工程の改善に努力した。 又廃油等も減量化に向けた教宣を月初に各部署に行い結果微増に留める事が出来た。 汚泥→排水原水の削減に取り組み6.3%の減量に繋げる事が出来た。 (機械・タンク等の洗浄水の再利用化及び同一品種のまとめ生産)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	排出量	67 t	3314 t
	(今後実施する予定の取組) 廃油→塗料製造工程の見直しで改善を図り歩留を上げ削減に向けて更に努力して行く。又要手品半製品を積極的に消化推進し発生量の減少に繋げて行く。又工程異常品の削減に向け作業員の教宣指導を継続して行く。 汚泥→昨年同様各部署に機械洗浄やタンク洗浄の効率化を図る様教宣指導を行い排水原水の削減に繋げて行きたい		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) Iso14001の廃棄物排出要領を基に各担当者に毎月分別方法・状況等の教育指導を徹底して行っている。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混合廃棄物の発生は少ないが今後更に排出要領に基づき分別の再教育指導を徹底させ分別に関する感度を高めて行く。(特に新入社員・業託者等)		

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	3204 t
(これまでに実施した取組) 実施していない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	3044 t
(今後実施する予定の取組) 実施予定なし			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	全処理委託量	70.6 t	284 t
	優良認定処理業者への処理委託量	12.5 t	235 t
	再生利用業者への処理委託量	44.5 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	32 t	3 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 廃油→燃料化で処理している業者と折衝を行い燃料化を図り再生利用処理委託量の増に繋げる事が出来た。 汚泥→再生利用業者各社と折衝をおこなってきたが条件面で折り合いがつかず再生利用する事が出来なかった。 全処理委託量増加も中間処理量が増えた事に依る要因が大であった。又、優良認定処理業者への処理委託が出来て成果はあった。			

## (第5面)

②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	廃油(水性塗料)	汚泥
	全処理委託量	67 t	270 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	13.1 t	249 t
	再生利用業者への 処理委託量	46.7 t	10 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	33.6 t	3.2 t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託量	0 t	0 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>廃油→工場内で発生する排出量削減と共に委託量に関しても優良認定 処理業者又は再生利用業者への委託量の比率を高めて行く。</p> <p>汚泥→各再生利用業者と継続的に折衝を行い、再生利用を図って行く。 更なる優良認定処理業者への比率を高めていく。</p>		
※事務処理欄			

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)  
別紙(Ⅱ)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	<b>【前年度（28年度）実績】</b>		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	排出量	85 t	
	(これまでに実施した取組) 廃プラ → 昨年同様リサイクル業者と折衝を行い更にリサイクル化を図り、排出量減量に繋げる事が出来た。社内で発生する廃プラ類の空容器等再利用化を更に進めた。 (ポリ容器・ポリドラム・PPカップ・ビニール等)		
② 計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	排出量	81 t	
	(今後実施する予定の取組) 廃プラ → 更に検討を重ね徹底した分別により社内で再利用化を進め発生量削減に努力する。又リサイクル化を図る為数社と折衝を行いリサイクル化を更に進めて行く。		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) Iso14001の廃棄物排出要領を基に各担当者に毎月分別方法・状況等の教育指導を実施している。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混合廃棄物の発生は少ないが今後更に排出要領に基づき分別の再教育指導を徹底させ分別に関する感度を高めて行く。(特に新入社員・業託者等)

## (第3面)

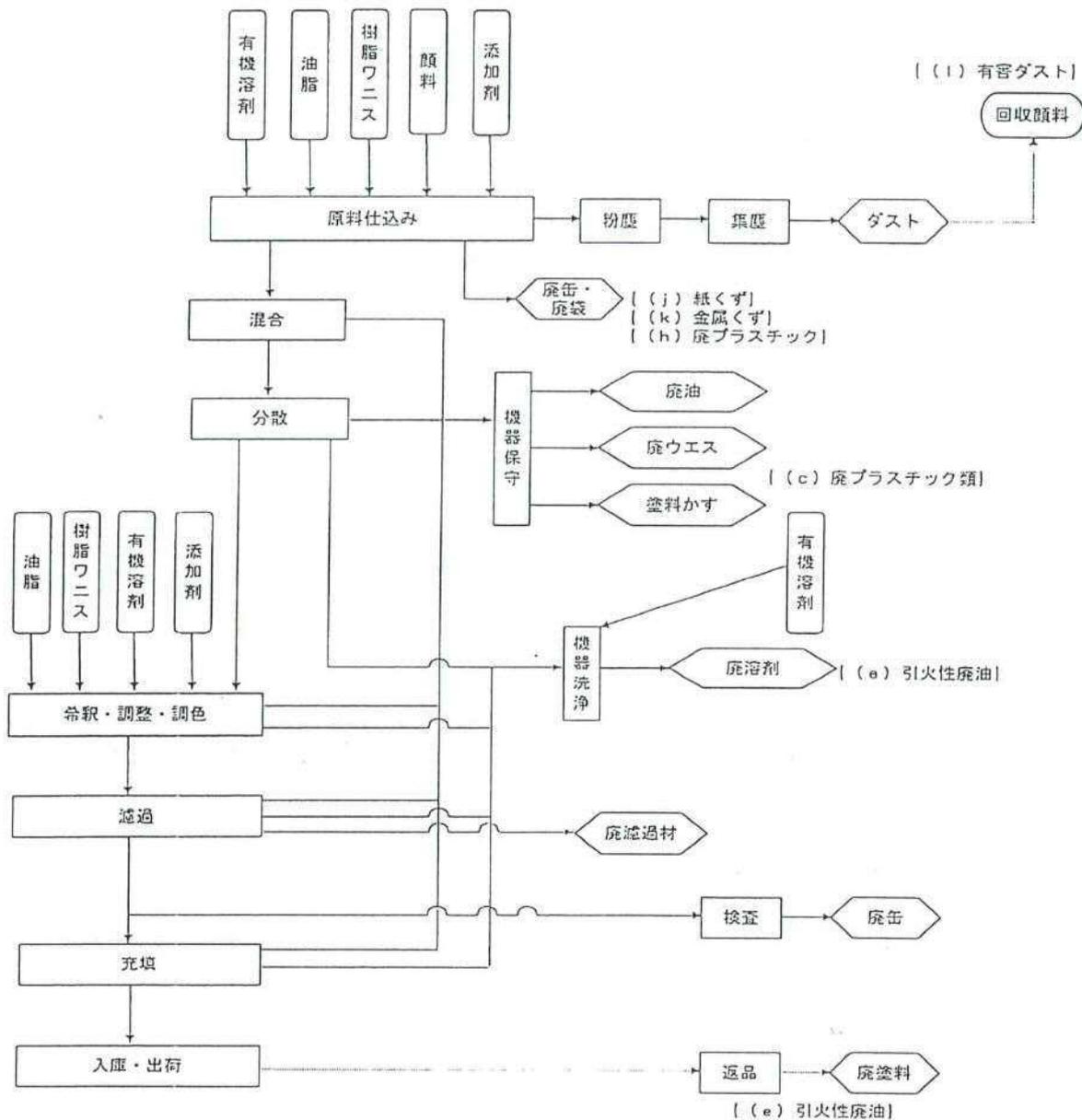
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 実施していない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。			

## (第4面)

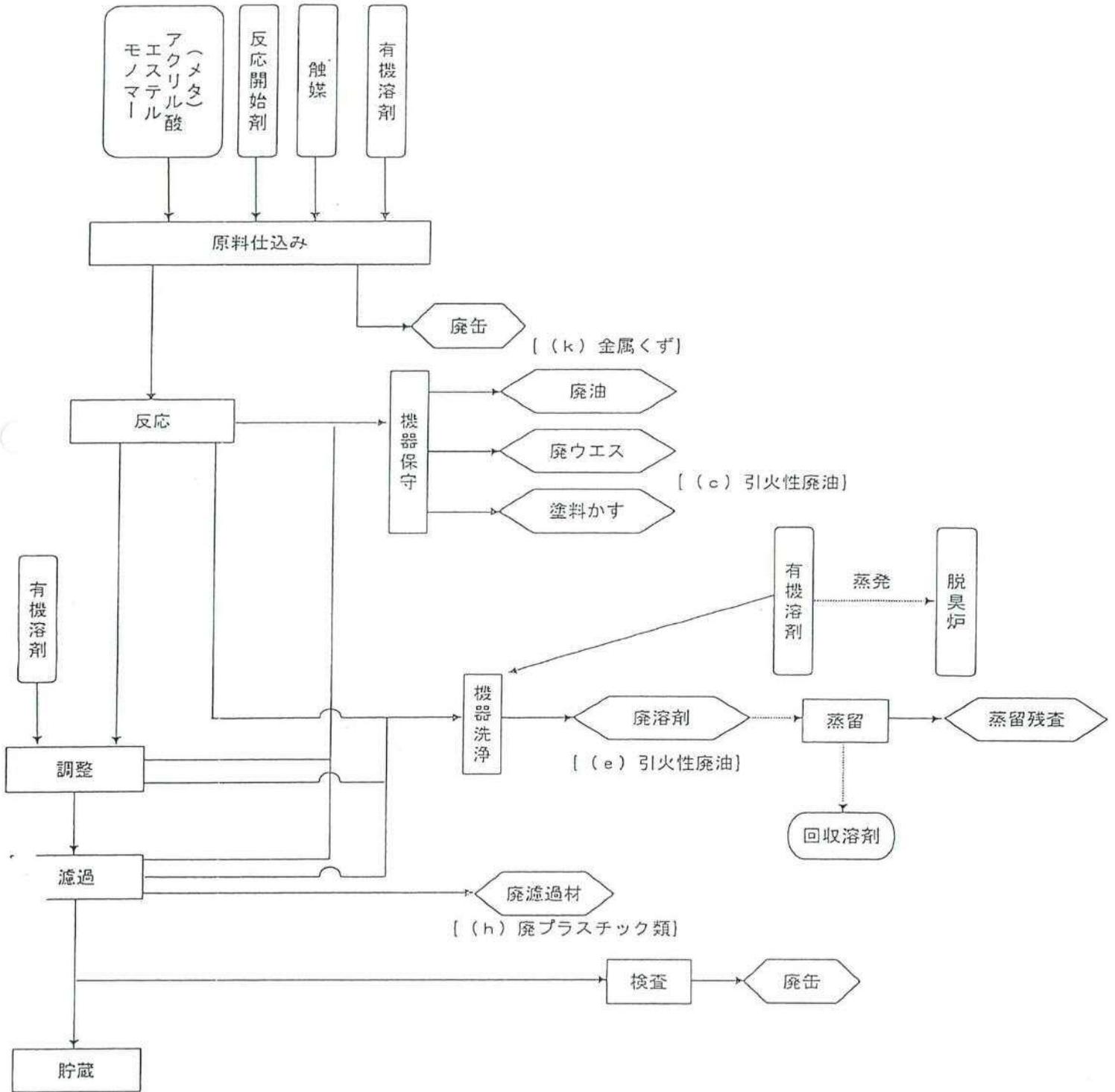
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	全処理委託量	85 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	34.4 t	
	再生利用業者への処理委託量	7 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0.1 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	
	(これまでに実施した取組) 廃プラ →リサイクル業者との折衝を行い、微増ではあるが成果を上げた。更に廃紛等のリサイクル業者と折衝中。 優良認定処理業者への委託が今年度出来た。		

②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	全処理委託量	81 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量	36.1 t	
	再生利用業者への 処理委託量	7.4 t	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.1 t	
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託量	0 t	
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>廃プラ →優良認定処理業者、再生利用業者への燃料化等リサイクル業者と積極的に折衝を進めて行く。</p>			
※事務処理欄			

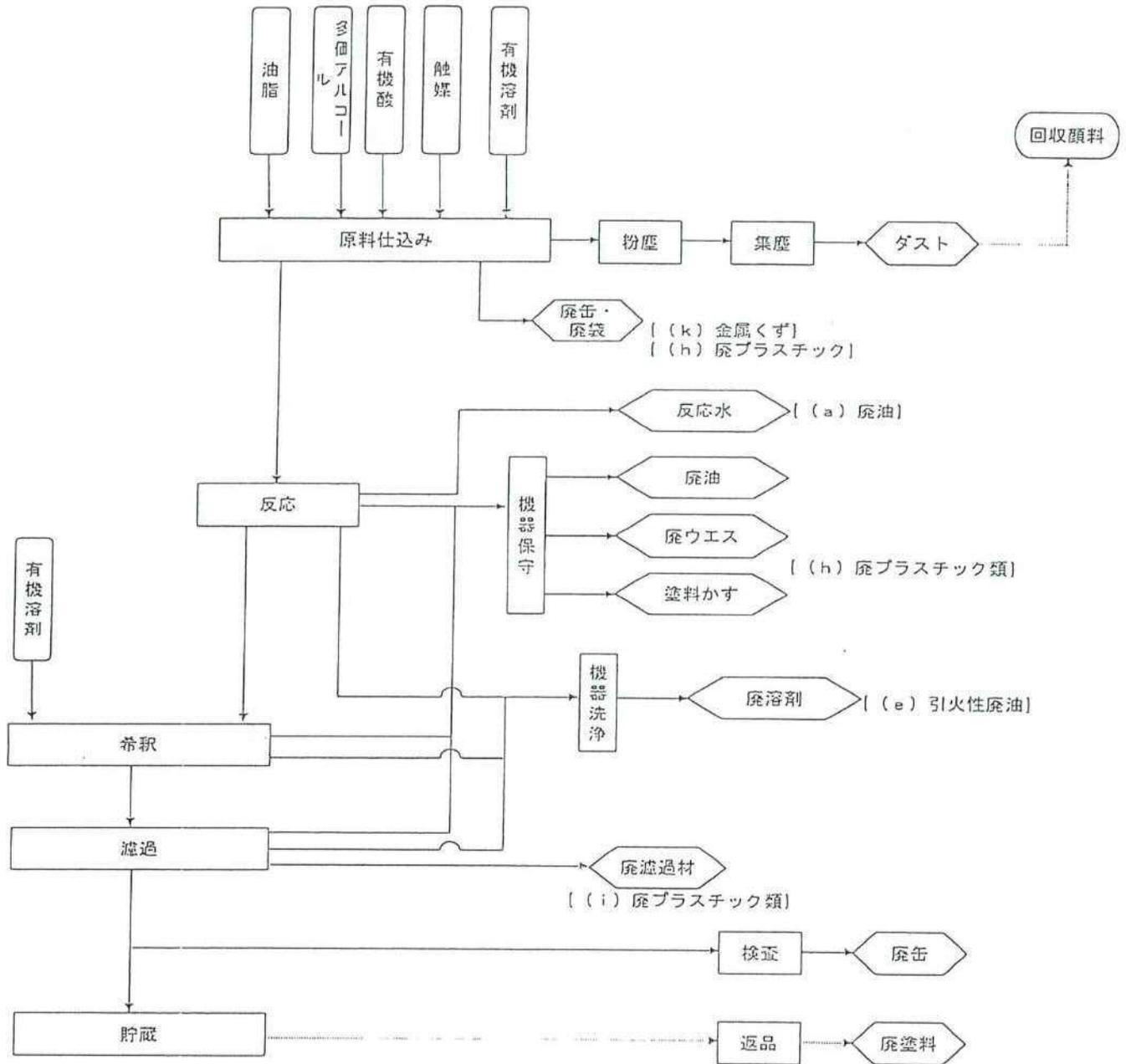
油性塗料産業廃棄物発生工程フロー



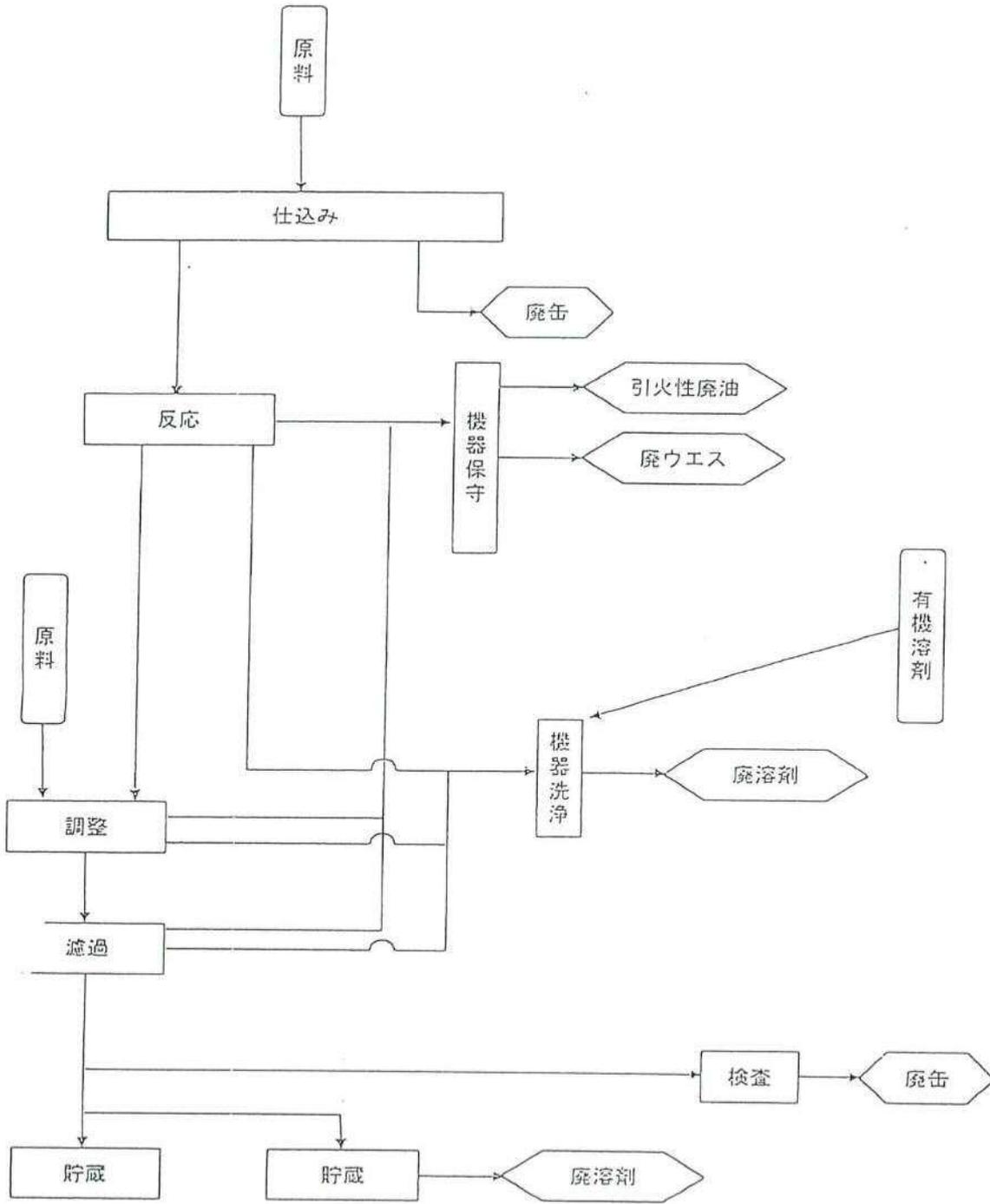
アクリル合成樹脂製造産業廃棄物発生工程フロー



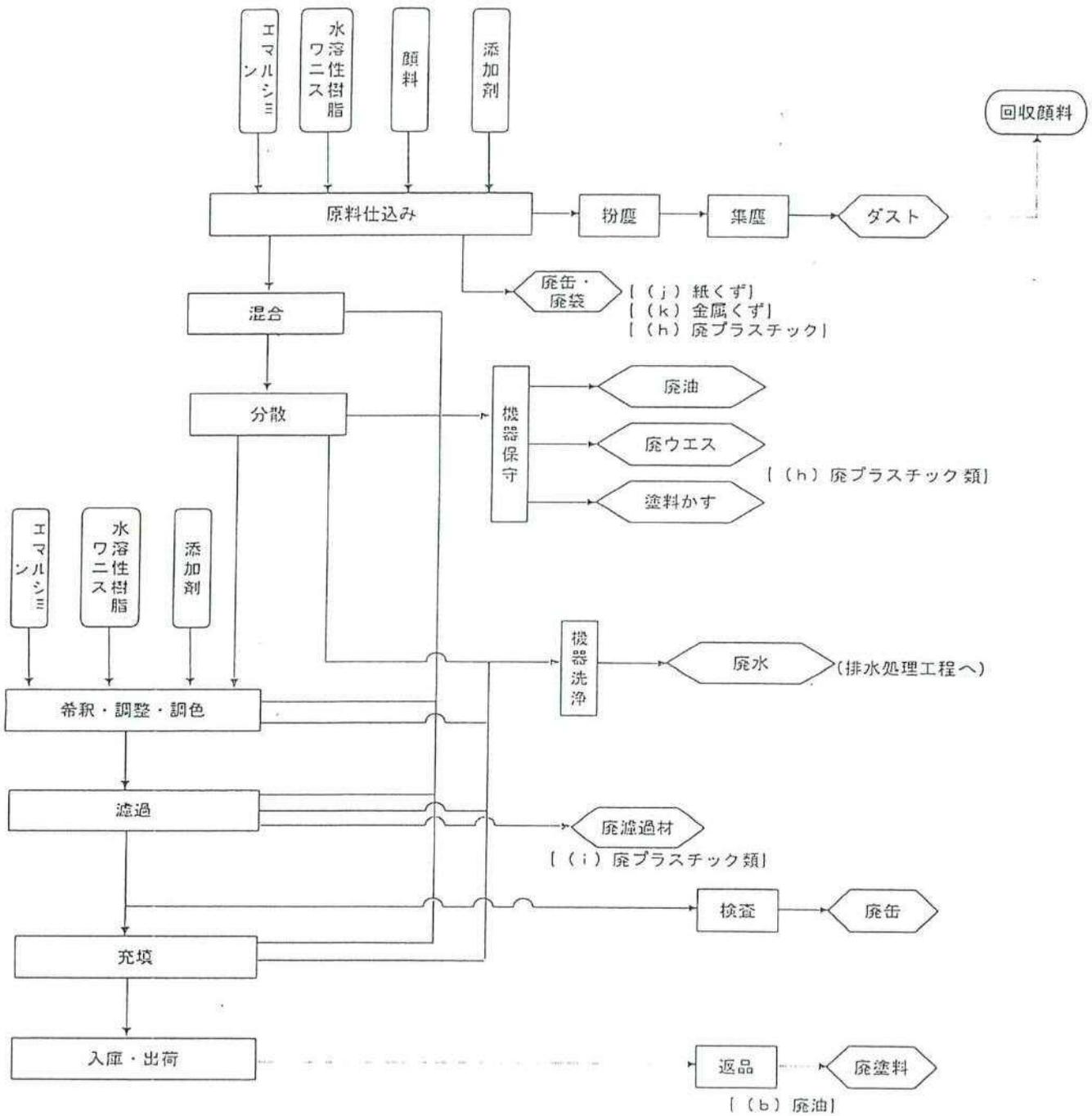
アルキド合成樹脂製造産業廃棄物発生工程フロー



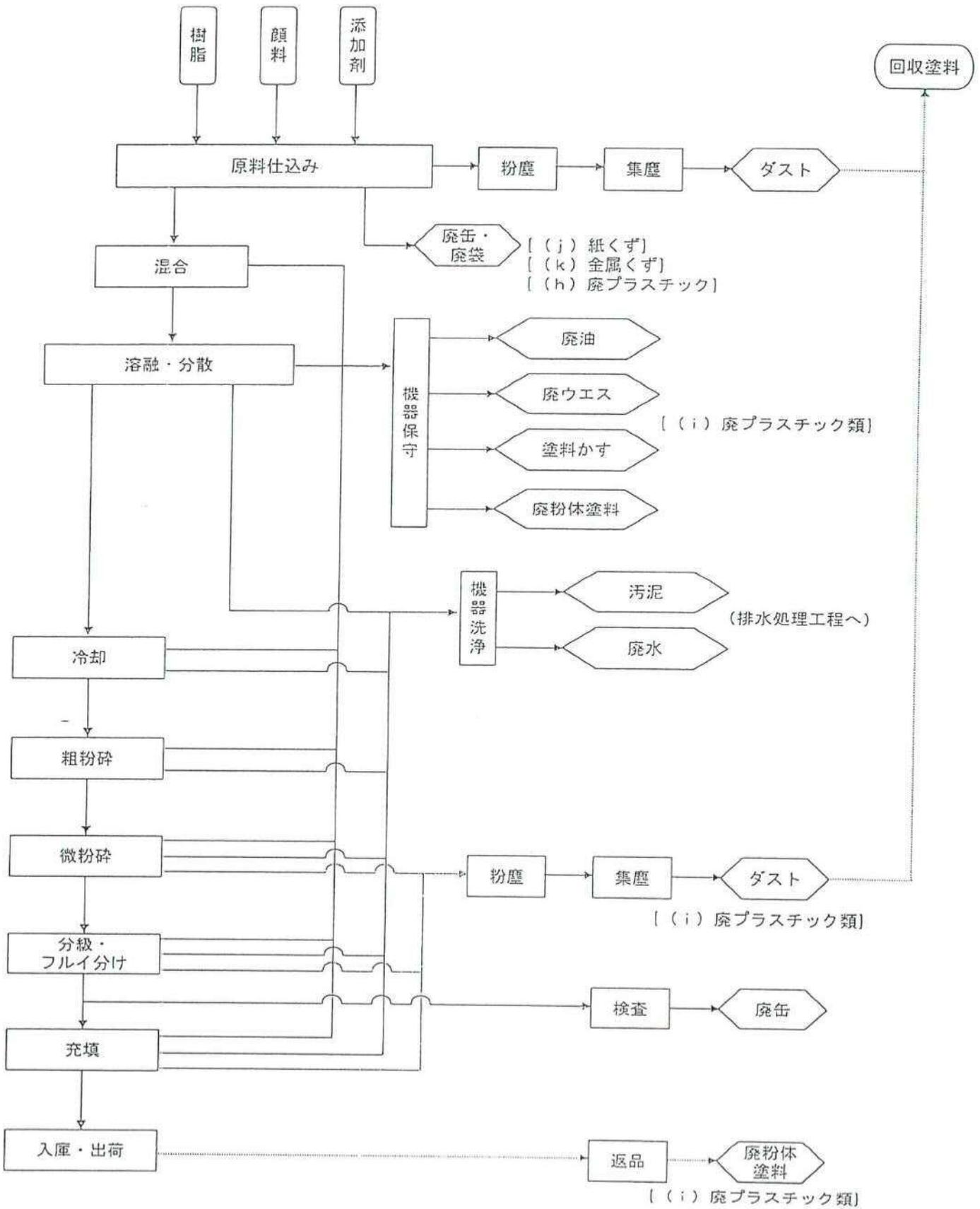
ワニス合成樹脂製造産業廃棄物発生工程フロー



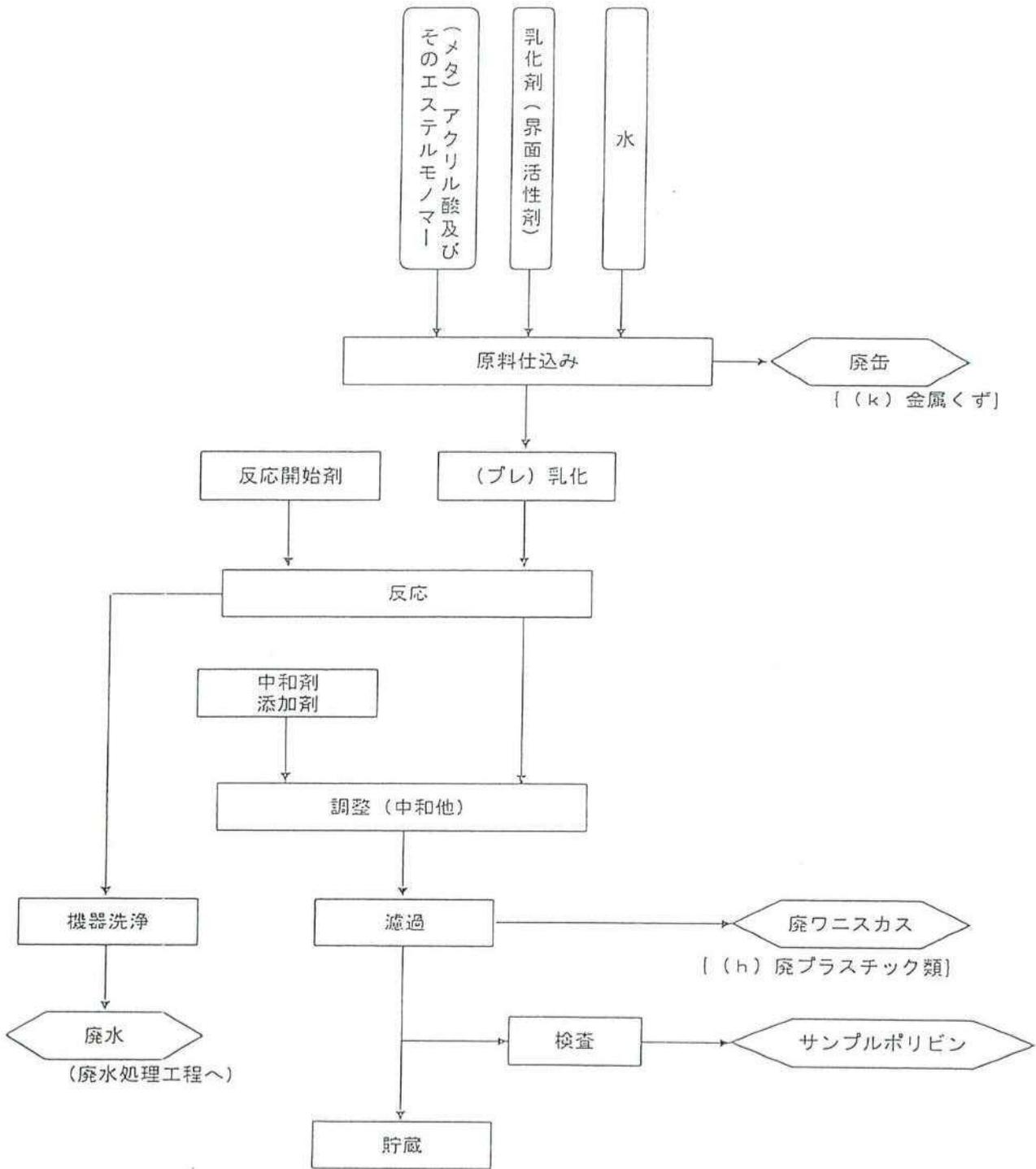
水性塗料産業廃棄物発生工程フロー



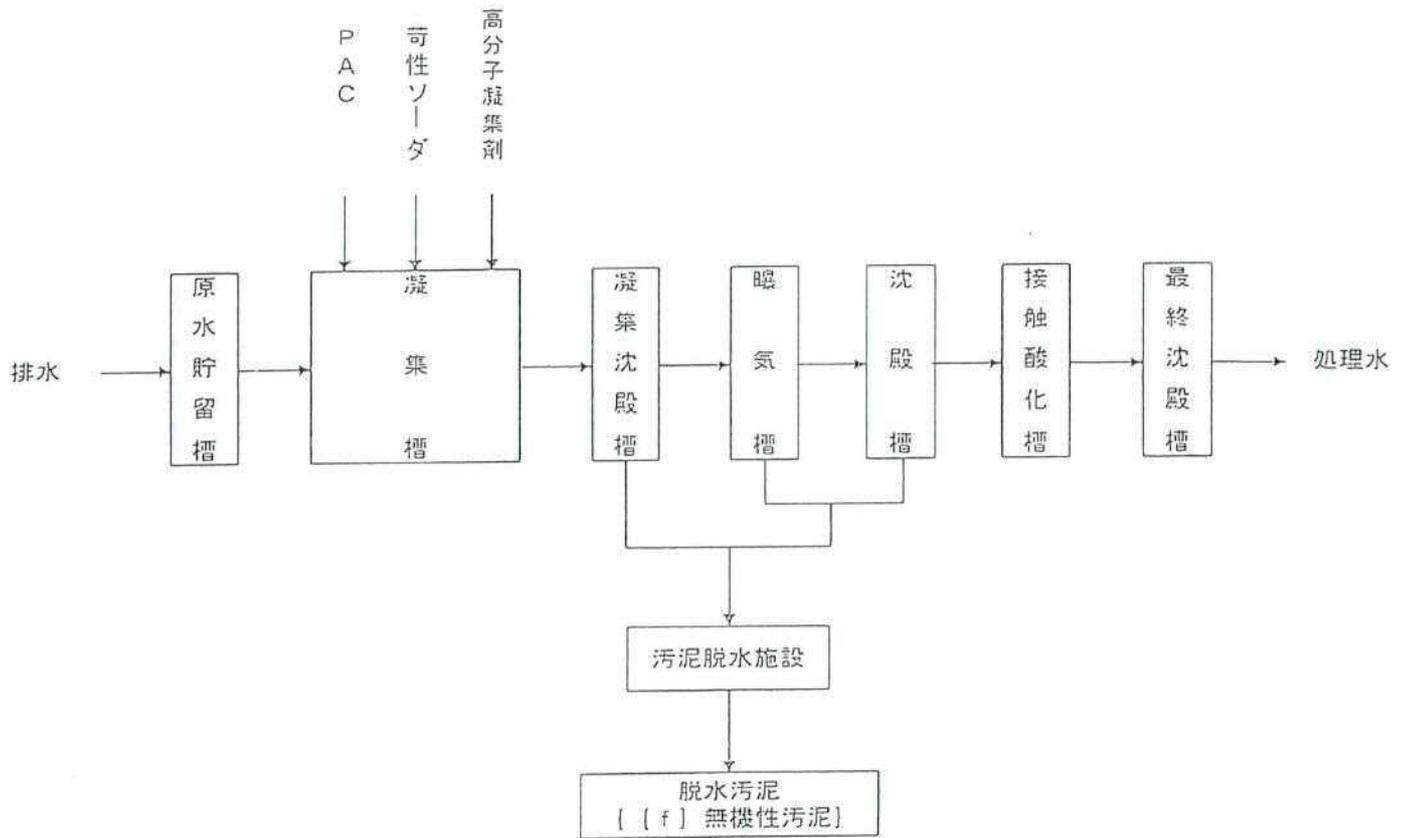
### 粉体塗料産業廃棄物発生工程フロー



水性エマルジョン合成樹脂製造産業廃棄物発生工程フロー



排水処理産業廃棄物発生工程フロー



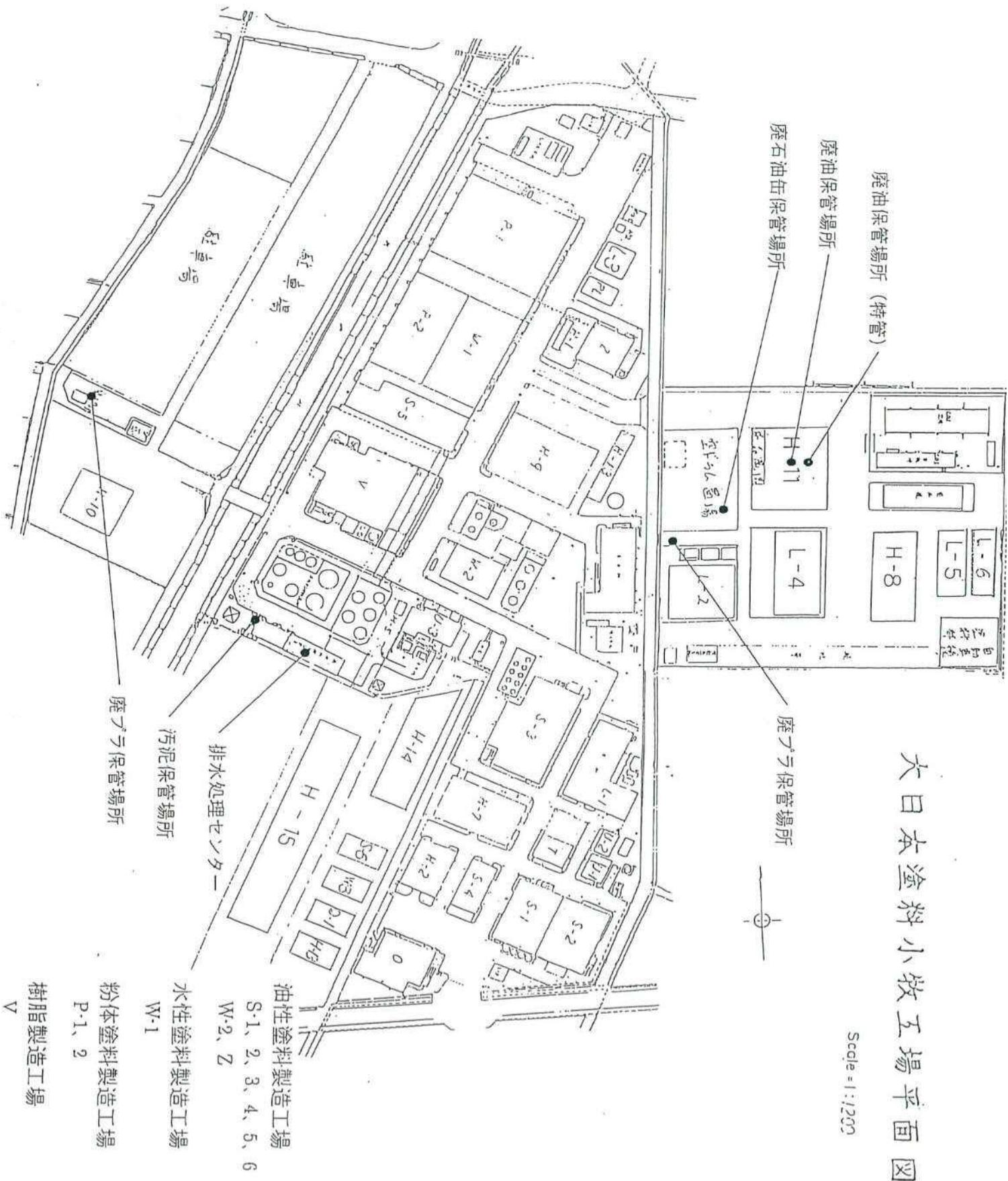


産業廃棄物の処理に係わる管理体制に関する事項

統括責任者	職・氏名	工場長	■■■■■
廃棄物担当部署	名称	工程課	人員数 3人
管理体制図			
<pre> graph TD     FM[工場長(廃棄物処理統括責任者)] --- EA[環境事務]     FM --- OQM[事務所 品質管理課]     FM --- TD[技術本部 工業塗料本部]     FM --- M123[製造第一・二・三]     FM --- RC[関連会社]          OQM --- OQM_WM[廃棄物担当者 1名]     TD --- TD_WM[廃棄物担当者 3名]     M123 --- M123_WM[廃棄物担当者 6名]     RC --- RC_WM[廃棄物担当者 3名]          ED[工程課] --- IWM[産業廃棄物管理責任者]     ED --- SM[特別管理産業廃棄物管理責任者]             </pre>			
添付資料			
産業廃棄物管理責任者	所属・職・氏名	品質管理課	■■■■■
特別管理産業廃棄物管理責任者	所属・職・氏名	品質管理課	■■■■■

# 大日本塗料小牧工場平面図

Scale = 1:1200



廃油保管場所 (特管)

廃油保管場所

廃石油缶保管場所

廃プラ保管場所

廃プラ保管場所

汚泥保管場所

排水処理センター

油性塗料製造工場

S-1, 2, 3, 4, 5, 6

W-2, Z

水性塗料製造工場

W-1

粉体塗料製造工場

P-1, 2

樹脂製造工場

V

連絡及び立ち合い責任者

所属 大日本塗料株式会社

工程課

氏名



電話番号 0568(76)5564